

講義要目

(専攻科歯科衛生学専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態	
社会保障学特論	必	教授 鳥山 佳則	2	1年次前期	講義	
授業概要	我が国がこれまで経験したことの無い超高齢社会を迎えるにあたり、国策として実施される社会保障制度改革の中で求められる歯科衛生士の役割について学ぶ。					
到達目標	1. 日本の社会保障制度の概要を説明できる。 2. 日本の医療保険、介護保険の概要を説明できる。					
評価方法	プレ・ポストテスト、筆記試験					
教科書等	最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2 歯科衛生士と法律・制度 第2版(医歯薬出版)、歯科衛生士のための歯科診療報酬入門2018-2019(医歯薬出版)、厚生労働省(We b)					
内 容						
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回	社会保障制度の概要 医療保険制度 地域包括ケアシステムと介護保険制度 障害者を支える制度 健康づくりの施策 女性の多様な働き方 歯科診療報酬(総論) 歯科診療報酬(初診料と再診料) 歯科診療報酬(歯周治療) 歯科診療報酬(在宅医療) 歯科診療報酬(周術期等口腔機能管理1) 歯科診療報酬(周術期等口腔機能管理2) 歯科診療報酬(特掲診療料) 歯科診療報酬(保険診療と自由診療1) 歯科診療報酬(保険診療と自由診療2)			第1回～第15回	鳥山教授	
備考	第1回～第15回を鳥山教授が担当					

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態	
口腔保健学総論	必	教授 杉戸 博記 講師 中田 悠 講師 多田 美穂子	2	1年次前期	講義	
授業概要	歯科保健指導・歯科保健教育の果たす役割とともに、ライフステージごとの歯と口腔の特徴と好ましい保健行動は何かを学び、健康の保持増進のために必要な個々の歯科に対するニーズを考える。また、対象者の行動変容を促すための行動理論と健康支援のためのプロフェッショナルケアとセルフケアの方法など、専門的な基礎知識を習得する。【オムニバス方式】					
到達目標	歯科保健指導を個人と集団に分けて説明できる。各ライフステージに適した歯科保健指導内容を説明できる。					
評価方法	プレ・ポストテスト、筆記試験					
教科書等	和食と健康(思文閣)、最新歯科衛生士教本 疾病の成り立ち及び回復過程の促進2 微生物学(医歯薬出版)、最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論(医歯薬出版)					
内 容						
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回	食習慣の現状について 食と健康 日本人の食事摂取基準 齲蝕、歯周病の原因について 細菌の分類、病原因子について デンタルブラークバイオフィルムの特性やそのコントロールの意義 歯科保健指導について ライフステージの口腔内の特徴 口腔衛生管理法について 歯の健康について う蝕発生要因と予防 歯周疾患の予防 歯周治療学概論 歯周治療の流れ ブラークコントロール			第1回～第3回 第4回～第10回 第11回～第15回	中田講師 多田講師 杉戸教授	
備考	第1回～第3回を中田講師が担当、第4回～第10回を多田講師が担当、第11回～第15回を杉戸教授が担当					

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
口腔保健学特論	必	教授 片田 英憲 教授 杉戸 博記 教授 菅野 亜紀	2	1年次 前期	講義
授業概要	対象者に歯科保健指導と健康づくり支援を行うため、口腔疾患の特徴を学修し、専門職として人々の生涯にわたる歯科衛生の維持・向上に寄与できる能力を身につける。【オムニバス方式】				
到達目標	歯科衛生業務を論理的に実践するために、科学的思考およびクリティカルな思考能力を認識する。歯科衛生実践論を踏まえ、事例対象者にあわせた歯科衛生上の問題点を解決するために、科学的およびクリティカルな思考能力を認識する。				
評価方法	ブレ・ポストテスト、筆記試験				
教科書等	最新歯科衛生士教本 歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法(医歯薬出版)、歯科衛生士講座 歯周病学 第3版(永末書店)、最新歯科衛生士教本 咀嚼障害・咬合異常2 歯科矯正(医歯薬出版)、歯科衛生士講座 小児歯科学(永末書店)、最新歯科衛生士教本 障害者歯科 第2版(医歯薬出版)、歯科衛生士講座 高齢者歯科学 第3版(永末書店)				
内 容					
第1回	小児の心身の成長・発達		第1回～第4回	片田教授	
第2回	小児期の口腔疾患と治療法について		第5回～第8回	杉戸教授	
第3回	う蝕及び歯周疾患の予防について				
第4回	小児患者および障害者に対する歯科保健指導について		第9回～第12回	菅野教授	
第5回	歯の硬組織疾患について				
第6回	歯髄疾患について				
第7回	歯周組織疾患について		第13回～第15回	片田教授	
第8回	歯周疾患に対する診療補助業務について				
第9回	高齢者における口腔領域の疾患について				
第10回	全身状態の把握と対応について				
第11回	高齢者歯科医療の実態について				
第12回	口腔衛生管理について				
第13回	顎顔面の成長と発達について				
第14回	正常咬合と不正咬合について				
第15回	矯正歯科患者の口腔保健指導について				
備考	第1回～第4回を片田教授が担当、第5回～第8回を杉戸教授が担当、第9回～第12回を菅野教授が担当、第13回～第15回を片田教授が担当				

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
スペシャルニーズ 口腔保健学	必	教授 鳥山 佳則 教授 片田 英憲 教授 菅野 亜紀 講師 有友 たかね	2	1年次 後期	講義
授業概要	様々な態様の摂食嚥下障害のある患者に歯科医療従事者として適切に対応するために、摂食嚥下リハビリテーションに関する基本的知識と技能を修得する。【オムニバス方式】				
到達目標	摂食嚥下の解剖・生理、機能発達・減退、栄養ならびにリハビリテーションの実際を理解する				
評価方法	ブレ・ポストテスト、筆記試験				
教科書等	歯科衛生士講座 小児歯科学(永末書店)、最新歯科衛生士教本 障害者歯科 第2版(医歯薬出版)、歯学生のための摂食・嚥下リハビリテーション学(医歯薬出版)				
内 容					
第1回	障害の概念、種類と歯科的特徴について		第1回～第3回	片田教授	
第2回	小児患者および障害者の対応法について		第4回～第9回	有友講師	
第3回	小児患者および障害者に対する歯科保健指導について				
第4回	口腔機能リハビリテーション総論		第10回～第14回	菅野教授	
第5回	摂食嚥下機能の健全な発達と老化の過程について				
第6回	摂食嚥下障害の概念と主な原因について				
第7回	摂食嚥下障害の機能評価について		第15回	鳥山教授	
第8回	摂食嚥下リハビリテーションの手技について				
第9回	摂食嚥下リハビリテーション小児への対応について				
第10回	摂食嚥下障害に関連する栄養療法について				
第11回	在宅歯科医療対象者の身体的特徴について				
第12回	在宅歯科医療における地域医療連携について				
第13回	摂食嚥下障害とリハビリテーションについて				
第14回	口腔衛生管理について				
第15回	介護保険における歯科衛生士の役割について				
備考	第1回～第3回を片田教授が担当、第4回～第9回を有友講師が担当、第10回～第14回を菅野教授が担当、第15回を鳥山教授が担当				

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
歯科治療学特論	必	教授 片田 英憲 教授 杉戸 博記	2	1年次 前期	講義
授業概要	歯科診療の補助と歯科保健指導を行うために、歯の硬組織疾患、歯髄疾患、根尖性歯周組織疾患、歯科疾患、歯冠修復及び欠損補綴を理解する。【オムニバス方式】				
到達目標	歯科治療の意義と目的を理解し、予後管理に必要な口腔健康管理の知識を修得する。				
評価方法	プレ・ポストテスト、筆記試験				
教科書等	新・歯科医療における感染予防対策と滅菌・消毒・洗浄(医歯薬出版)、最新歯科衛生士教本 歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法(医歯薬出版)、歯科衛生士講座 歯周病学 第3版(永末書店)、最新歯科衛生士教本 咀嚼障害・咬合異常1 歯科補綴(医歯薬出版)、最新歯科衛生士教本 顎・口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔(医歯薬出版)、歯科衛生士が知っておきたい よくわかる口腔インプラント(医歯薬出版)				
内 容					
第1回	保存修復の目的について		第1回～第6回	杉戸教授	
第2回	保存修復(直接修復、間接修復)について				
第3回	歯内療法目的について				
第4回	歯周病について				
第5回	歯科補綴治療における検査診断について				
第6回	クラウンブリッジ治療について				
第7回	感染経路別の予防策について		第7回～第15回	片田教授	
第8回	感染リスクの低減について				
第9回	歯科医療機器と環境表面の滅菌法等について				
第10回	口腔外科における歯科衛生士の役割について				
第11回	局所麻酔・精神鎮静法・全身麻酔について				
第12回	救急処置について				
第13回	口腔インプラント治療について				
第14回	口腔インプラント治療に必要なコミュニケーションスキルについて				
第15回	健康保険が適用される矯正歯科治療について				
備考	第1回～第6回を杉戸教授が担当、第7回～第15回を片田教授が担当				

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
口腔と全身の健康学	必	教授 安松 啓子 教授 菅野 亜紀 講師 中田 悠	2	1年次 後期	講義
授業概要	口腔の健康と機能の維持増進のための全身的要因、生活習慣、社会経済的要因および環境要因のリスク評価について理解し、リスク評価およびライフステージに基づいた保健指導および予防処置を修得する。【オムニバス方式】				
到達目標	歯科疾患を予防するための全身的要因等について、リスク評価およびライフステージに基づいた保健指導および予防処置を実施できる。				
評価方法	プレ・ポストテスト、筆記試験				
教科書等	最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能2 栄養と代謝(医歯薬出版)、歯学生のための摂食・嚥下リハビリテーション学(医歯薬出版)				
内 容					
第1回	アミノ酸、タンパク質の構造と機能、代謝について		第1回～第6回	安松教授	
第2回	糖質の機能および脂質の機能と代謝について				
第3回	食物の成分、栄養について				
第4回	組織・器官・器官系による生理現象について				
第5回	各疾患の原因・病態・治療の概要について				
第6回	各疾患の栄養食事療法について				
第7回	摂食嚥下障害に関連する栄養療法について		第7回～第11回	菅野教授	
第8回	摂食嚥下リハビリテーションにおける多職種連携について				
第9回	摂食嚥下リハビリテーションにおける危機管理について				
第10回	歯科衛生士の業務と役割について		第12回～第15回	中田講師	
第11回	他専門職と協働する重要性について				
第12回	患者や相談者とのコミュニケーション能力について				
第13回	医科疾患と口腔の関連性について				
第14回	医科疾患への口腔衛生管理法について				
第15回	包括医療における歯科衛生士について				
備考	第1回～第6回を安松教授が担当、第7回～第11回を菅野教授が担当、第12回～第15回を中田講師が担当				

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
チーム医療特論	必	教授 鳥山 佳則 教授 菅野 亜紀 講師 中田 悠	2	1年次 後期	講義
授業概要	多職種連携実践に必要な知識・技術・コミュニケーション能力を修得する。【オムニバス方式】				
到達目標	医科歯科連携の重要性を説明する。医科疾患患者に対する口腔衛生管理の必要性を多職種に説明できる。口腔衛生上の問題点を抽出し、必要な支援方法を計画・立案できる。				
評価方法	プレ・ポストテスト、筆記試験				
教科書等	最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2 歯科衛生士と法律・制度 第2版(医歯薬出版)、歯科五法コンメンタル 第3版(ヒョーロン・パブリッシャーズ)、歯学生のための摂食・嚥下リハビリテーション学(医歯薬出版)				
内容	第1回 我が国の法制度の概略を説明する。 第2回 保健医療福祉の法令について 第3回 保健医療福祉の行政について 第4回 我が国の保健医療福祉の中における歯科保健医療福祉について 第5回 歯科衛生士法と歯科衛生士の業務について 第6回 看護の概念および目的について 第7回 看護対象の理解、看護理論の活用について 第8回 看護活動の場と保健・医療・福祉チームにおける看護の役割・機能からみた歯科衛生士としての役割・機能について 第9回 歯科衛生士業務に活用できる基本的な看護技術の習得について 第10回 チーム医療について 第11回 チーム医療に関わる医療従事者との連携について 第12回 在宅歯科医療対象者の身体的・心理的特徴について 第13回 在宅歯科医療における地域医療連携について 第14回 摂食嚥下障害の概念と主な原因について 第15回 摂食嚥下障害に関連する栄養療法について		第1回～第5回 第6回～第11回 第12回～第15回	鳥山教授 菅野講師 中田講師	
備考	第1回～第5回を鳥山教授が担当、第6回～第11回を菅野教授が担当、第12回～第15回を中田講師が担当				

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
チーム医療特別実習	必	教授 片田 英憲 教授 菅野 亜紀 講師 永井 由美子 講師 中田 悠 講師 多田 美穂子 講師 江口 貴子	2	1年次 後期	実習
授業概要	医科疾患と口腔の関連性、医科疾患への歯科衛生管理を修得し、包括医療における歯科衛生士の役割、チーム医療に関わる医療従事者との連携について修得する。【クラス分け方式】				
到達目標	医科疾患患者に対する口腔衛生管理の必要性を多職種に説明し実践できる。口腔衛生上の問題点を抽出し、必要な支援を行うことができる。				
評価方法	課題レポート				
教科書等	必要に応じて資料の配布、参考図書の提示等を行う				
内容	第1回～第15回 チーム医療の基礎で修得した医科疾患と口腔の関連性、医科疾患への歯科衛生管理を行う。 臨床の場で医療の実践に必要な知識、技術を理解し実行する。 チーム医療に関わる医療従事者との連携をとれるようコミュニケーション能力の向上を図る。 医科疾患患者に対する口腔衛生管理の必要性を多職種に説明し、連携を図る。		第1回～第15回	片田教授 菅野教授 永井講師 中田講師 多田講師 江口講師	
備考	第1回～第15回を片田教授、菅野教授、永井講師、中田講師、多田講師、江口講師が担当				

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
臨床臨床特別実習	必	教授 片田 英憲 教授 杉戸 博記 教授 菅野 亜紀 講師 永井 由美子 講師 中田 悠 講師 多田 美穂子 講師 江口 貴子	9	1年次 通年	実習
授業概要	高齢者・障害者の歯科医療に関する知識や技能の基礎を修得する。【クラス分け方式】				
到達目標	加齢や障害に伴う身体的・精神的変化を理解する。高齢者・障害者の疾病の特徴を理解する。				
評価方法	課題レポート				
教科書等	必要に応じて資料の配布、参考図書の提示等を行う				
内 容					
第1回 ～第15回	東京歯科大学 市川総合病院（病床数570床）、東京歯科大学 水道橋病院（病床数20床、歯科診療台数137台）において、歯科臨床各科の様々な診療にかかる知識をもとに診療の取り扱いが難しい高齢者や障害者への基本的な歯科診療についての技能を学ぶ。 これら、大学附属病院では、実習を行うとともに関係する講義を行い歯科衛生士としての歯科予防処置・歯科診療補助・歯科保健指導について、適切に提供することができる能力を身に付ける。			第1回～第15回	片田教授 杉戸教授 菅野教授 永井講師 中田講師 多田講師 江口講師
備考	第1回～第15回を片田教授、杉戸教授、菅野教授、永井講師、中田講師、多田講師、江口講師が担当				

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
専攻科研究	必	教授 鳥山 佳則 教授 片田 英憲 教授 安松 啓子 教授 杉戸 博記 教授 菅野 亜紀 講師 中田 悠	4	1年次 通年	演習
授業概要	学生の議論の中から個々の研究テーマを見だし、実験・文献検索・アンケート調査等を通して疑問を解決する。結果のとりまとめ、発表・相互評価したのち研究論文としてとりまとめる。この過程の中で、最も近接する教員が指導にあたる。【クラス分け方式】				
到達目標	研究成果をとりまとめ、発表する。				
評価方法	研究発表、論文				
教科書等	必要に応じて資料の配布、参考図書の提示等を行う				
内 容					
第1回 ～第10回	研究遂行に必要な基礎知識を修得 日常臨床において研究課題の設定 研究課題に関連する資料・文献の収集 研究計画の立案 研究データの収集と分析 研究成果を論理的に記述			第1回～第10回	鳥山教授 片田教授 安松教授 杉戸教授 菅野講師 中田講師
備考	第1回～第10回を鳥山教授、片田教授、安松教授、杉戸教授、菅野教授、中田講師が担当				

